

登山月報

2011年を迎えて	1
懸垂下降用ロープ結束強度試験報告	2
新連載 Mountain World 第26回	4
第1回全国高校生クライミング選手権	5
ザ・ヒマラヤ・デーを担当して	7
JMA、寄贈図書	8
編集後記	12

2011年を迎えて

社団法人 日本山岳協会 会長 田中 文男

昨年末、登山月報の新年号のために原稿を書いていた。しかし、その原稿の全てを書き改める事にした。その理由からまずお伝えしたい。

12月末、ある会合で埼玉県議会の長老と言われている議員の方から激しいお叱りを受けた。それは奥秩父で発生した三重遭難についてである。「この事故で多数の人命が失われ、埼玉県民の貴重な財産であるヘリコプターまで大破させてしまった。人命にスペアはない。殉職した職員は二度と戻って来ない。ヘリコプターもすぐに新調しないと、万一の場合に県民の安全を確保する事ができない。これらの原因を作ったのはあなた方登山者なのです。いったい、どういう指導を登山者に行ってきたのか。また損害を、誰が補償してくれるのか。結局は関係のない県民が負担する事になってしまっている事を登山者は忘れて貰っては困る」というのがお叱りの主旨だった。この場合、遭難を起した人が日本山岳協会に所属しているか、いなかは全く問題ではない。私達の組織がそういう視点で社会から注目されているという事を改めて自覚しておく必要がある。

今後、公益法人化を目指す私達は登山者にとって、いや、登山に関係のない人にとっても、必要とされる日本山岳協会でなければその存在価値はない。創立50周年を迎えた今日、更に前進できるよう多くの方々のご協力に期待したいと思う。

さて、前述のように大勢の方々を支えられて、私達は創立50周年という記念すべき年を迎える事ができた。早くから多くの事業が計画され、そのほとんどを無事終了する事ができた。残っているのは本年1月15日に開催される記念式典と祝賀会のみと言ってもいい。この式典、祝賀会には登山界発展のためご協力、ご支援下さった多くの先輩、山仲間が出席して下さい。関係する諸団体の方々も多数ご出席頂ける事になっている。ここで特筆すべき事を申し上げたい。本誌が発行される頃には祝賀会の内容全て公表され、参加

される方々にはご承知済みの事になると思うが、今回の祝賀会には皇室から行啓を賜れる事が決定した。これは他の競技団体でも例をみない事であり、まして日本山岳協会にとって初めての慶事である。私達の団体が、ここまで成長できた事を大変嬉しく思うし、今後もその期待に応えていく責任がある。ただ今回は例年より多くの方が参加して下さいと予想はしていたが、参加希望者が予想をはるかに越え、締切り後の出席希望者に応える事ができなかった事をお詫び申し上げたい。

結びにここ10年間の私達の歩を簡単に振り返ってみたい。

- ◎ 未来の登山愛好家を育てるため、各県に少年少女登山教室の開催をお願いしてきたが、これは完全に軌道に乗った。補正予算を組まなければならぬほど申込が多くなった。
 - ◎ 本格的なアルピニストを援助するための海外登山の奨励金も毎年多数の応募があり、新たな分野で活躍して下さいの人達の励みになっている。
 - ◎ クライミング競技も国民体育大会に生き残る事ができ、ここ数年でワールド・カップの大会を2回日本で開催する事ができた。昨年12月には念願の高等学校選手権もようやく開催の運びとなり大盛況だった。
 - ◎ 日本の登山界における最高の栄誉賞を日本山岳協会が設定したいと考え、創立50周年を記念してその第1回日本山岳グランプリ賞の受賞者が決定した。1月15日に授賞式を行う。
 - ◎ 山岳共済は昨年12月で5万1千人の加入者となり、ついに5万の大台を越える事ができた。
 - ◎ 資本金と同じ役割を持つ基本金もスタート時代の3倍強の5千万円となった。
- これらは現場で働く常務理事の皆さんの活躍と、加盟団体の方々のご協力によるもの。心から感謝を申し上げ、新年の稿とさせていただきます。どうぞ良い年でありますように。

懸垂下降用ロープ結束強度試験報告

指導委員会技術用具研究チーム 瀧本、井納、堤、鈴木、永井

概要

早稲田大学基幹理工学部機械科学・航空学科の浅川教授のご協力を得て、材料実験室のオートグラフを使用して、ロープ結束強度に関する試験を実施したので、その概要を報告する。試験はH22年4月19日～5月31日の間に3回の試験日を設け、56回の引っ張り試験を実施した。

1. 背景

懸垂下降用ロープの結束方法として、古くからダブル・フィッシャーマンズ・ノット（以下DFまたはダブルフィッシャーマン）が用いられてきたが、締まるとほどきにくいということと、岩角に引っ掛かりやすいということから、近年、ヨーロッパではフラット・オーバーハンド・ベント（以下OH又はオーバーハンド）が主流になっているようだ。

一方、米国では、オーバーハンドは事故事例がある事から、ユーロデスノット（Euro Death Knot:EDK）と言われ、またフラットフィギュアエイトベント（以下エイトまたはエイトノット）はEDKよりも更に不安定なので、使用すべきではないと言われている。但し、日本に於いてはエイトノットの愛用者も多いようだ。

今回の試験では、

- ①どのような状況で結束が解けるのか？
- ②安全のための止め結びはどのような方法が良いのかという2つの疑問からスタートした。

結束が解けるといふ事故が発生する条件としては

- a. 結束が緩い
- b. テール長が短い
- c. 結束方法自体が間違っている

などが考えられるが、今回はa. 緩い結束、b. 短いテール長についての試験を実施した。

また止め結びに関しては、3つほどの方法を評価した。

2. 試験装置および試験方法について

(1)試験装置

島津製作所製オートグラフ（図1）

（早稲田大学材料実験室保有）

型式：AG-IS100KN 最大荷重：100KN



図1



図2



図3

(2)試験方法

図2に示すように、1本のロープを上下の吊り具（リング部の径は20mm）を通して連結した（図3-cに相当）。

結束部自体の強度は図3-aのように、シングルロープを引っ張る形で評価できるが、今回は図3-cのように、ダブルロープを引っ張る形で評価した。従って、結束部にかかる荷重としては、約1/2の値で換算する必要がある。

一方、実際の懸垂下降は通常は（ダブルの場合）図3-bの様な形になり、結束部にかかる荷重は約1/2となっ

ている。

5mm/sec.の一定速度で引っ張ることにより荷重をかけた。

3. ロープ結束方法と呼称について

グラフ、文中ではスペースの制約があるので、以下のよ

(1)結束方法

*OH：Flat Overhand Bendとも呼ばれ、図4はテール長300mmで、1本のみ2インチ（=5cm）離れたところにオーバーハンドの止め結びをしたもの。

米国の一部の文献では、このようなバックアップを推奨しているものがあるので、2インチ離すことに意味があるのかどうかを検証した。

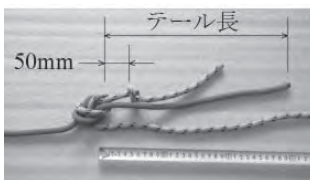


図4 OH

*エイト：Flat Figure Eight Bendとも呼ばれ、図5は止め結び無しの場合。



図5 エイト

*DF：Double Fisherman's Knotを表す

(2)結束の状態

ゆるめ：結束を作った後、テンションを与えずに試験を開始

個別締め：1本ずつ引っ張ってからセット

(3)止め結び

SOH：1本のみOHで止め結び

DOH：2本、まとめてOHで止め結び（結び目に密着）

2"SOH：結び目から50mm離れたところで1本のみ止め結び

根本SOH：結び目に密着して1本のみ止め結び

4. 試験結果（一部のみ紹介）

(1)テール長=300mm、止め結び無し

図6にT1とT2の結果を示す。

ロープ：8.2mm（新品同様）エーデルワイス・エバードライ

T1：オーバーハンド、ゆるめ結束、止め結び無し、テール長=300mm

T2：エイト、ゆるめ結束、止め結び無し、テール長=300mm

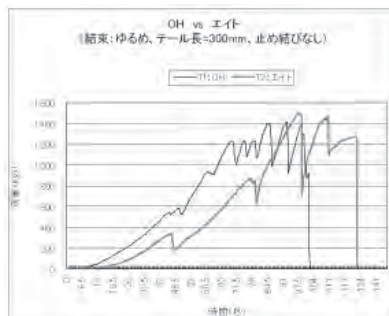


図6

- T1: オーバーハンド: 542kgから回転 (Rolled) を開始し、9回ほど回転し、結び目で切れた
 テール残=180mm / 195mm
- T2: エイト: 334kgで最初の反転 (Capsized) が起こり、計4回反転し、外皮が破け、切れそうになったが、最終的には結び目で切れた。
 テール残=210mm / 210mm
- (2) テール長=30mm、止め結び無し

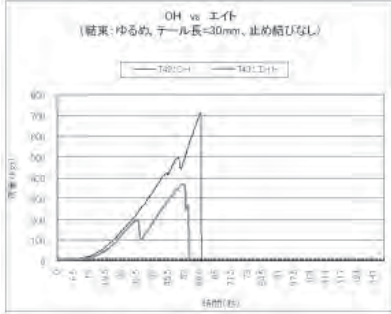


図7

- T42: オーバーハンド
 500kgで最初の反転、700kgで抜けた
- T43: エイト
 200kgで最初の反転、370kgで抜けた
- ※ テール長=30mmでも最初の反転では抜けなかった
- (3) 止め結びの効果

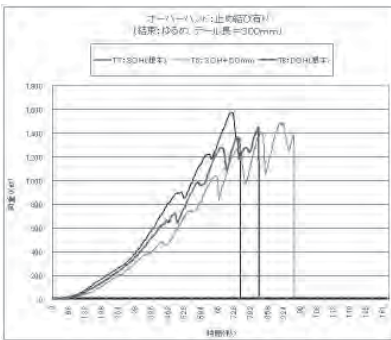


図8

- T7: オーバーハンド
 テール長=300mm、根本で1本止め結び
- T6: オーバーハンド
 テール長=300mm、50mm離して止め結び
- T8: ダブルオーバーハンド
 (根本)

T6では止め結びまで反転し、そこで、反転停止

5. 考察

オーバーハンド、エイトでの事故事例はいずれも、結束が緩く、かつテール長が短かったために起こったものと推測される。またエイトが更に不安定と云われるのは、エイトが解けるといふ事故が起こった後にBlack Diamond社の試験で、エイトはオーバーハンドよりも低い荷重で反転が生じると報告された影響が大きいものと思われる。

今回のテスト結果では、エイトノットではオーバーハンドの60%の荷重で最初の反転が起こっている。しかしながら、2回目の反転は865kgである。

T1とT2のテール残を見ると、オーバーハンドの方が短くなっている。最初のテール長が300mmなので、オーバー

ハンドは120 / 105mm分だけ回転に巻き込まれた、一方エイトは90 / 90mmだけ反転に巻き込まれた事になる。

テール長が30mmの場合には、エイトで最初の反転では抜けなかったが、オーバーハンドの約半分の荷重 (= 370kg) で抜けた。

止め結びの効果に関しては、図8では1本だけの根本止め結びが最も良いように見えるが、別の試験ではダブルオーバーハンドが最も良いように見えるものもある。止め結びさえすれば、どの方法でも問題ないように思える。

少なくとも、50mm離して止め結びをするメリットはなさそうである。

推測→ 離れた方が、止め結びをしているかどうかチェックしやすい?

エイトとオーバーハンドのどちらが良いかという問いは、難問である。以下に比較をまとめる。

	OH	エイト
結び易さ (正しく)	○	△
こぶの大きさ	○	×
締まったときの解きやすさ	△	○
止め結びがないときの反転 (エイトはOHの1/2)	○	×
事故事例 (北米)	1件	2件
北米での推奨	○	×
ヨーロッパ	○	—

上記表から考える限り、エイトにこだわる理由 (解きやすさ) に、どれだけのメリットがあるか疑問である。

(推奨案)

オーバーハンドを使用する際に、以下の3点を守ることを推奨する

- A 結束部を1本ずつしっかり締める
- B テール長は300mm以上残す
- C 止め結びを行う (シングルまたはダブル)

※ 結束部をしっかり締め、テール長を300mm以上残せば、解けることは無いと思うが、以上2点に関し、どちらか不十分というヒューマンエラーが出た場合を考え止め結びを行うことを実行してください。2つミスが重なれば事故につながる恐れがあります。

注) 回転と反転

オーバーハンドで結び目が回転しなげれることを回転と呼んだ。英語ではRolledと書かれている文献もある。一方、エイトノットで結び目がくると回ることを反転と呼んだ。英語ではCapsizedと表現する文献もある。また文献によっては両者を区別せずにFlipと表現している物もある。(文責 瀧本 健)

【遭難対策委員会の強度実験ではレスキュー用 (クライミングの2倍以上の荷重を前提) としてはエイトノットの方がリスク少という結果がでており、両委員会連携による今後の追加実験と検計により差異の解明、共通見解の報告が待たれる (広報)】

第26回 Mountain World

アメリカのワンダーボーイ

池田常道

スティーブ・ハウス、ケリー・コーズ、ジェッド・ブラウン、マクシム・テュルジョン、ジョシュ・ワートン、ローランド・ガリボッチェ——みな北米在住のアルパイン・クライマーとして名を馳せている面々だ。ナンガ・パルバット南壁やセロ・トーレ縦走を初めとしてカラコルム、アラスカ、カナダ、パタゴニアを舞台に彼らが成し遂げてきたビッグ・クライムのリストの豪華さには目を奪われる。

そんな人々に、この5年ほどパートナーとして抜擢されてきたのがコリン・ヘイリーだ。1984年生まれのヘイリーは、22歳のとき、ジェッド・ブラウンと共に、「アラスカのアイガー」と形容されていたヘイズ山群のモフィット3968m北壁を初登攀、エントロピー・ウォールと命名した。アイガーと呼ばれるきっかけとなった未踏の岩壁部（33ピッチ）を3日間で登ったのだった。

翌年1月にヘイリーはケリー・コーズと、セロ・トーレ3102mの「希望のコル」南壁から西壁フェラーリ・ルートへと継続登攀を行なった。南壁は94年に登られていたが、頂上まで継続されたのはこれが初めてだった。2ヶ月後にはブラウンとハンティントン3731mに冬季初登頂、5月にはスティーブ・ハウスとロブソン3954m北壁に困難な（WI5 M7）バリエーションを開拓、6月にはマーク・ウェストマンとデナリ・ダイヤモンドを第5登、史上第2位の45時間40分というスピードで完登した。

2007/08年の年末から年明けにかけて2回目のパタゴニアで、マクシム・テュルジョンとシュタンハルト2730m東壁のエグゾセ、フィッツロイ3405m西壁のスーパー・クーロワールを登っている。好調に気を良くして、学業に戻るのを延期したヘイリーに声をかけてきたのがローランド・ガリボッチェだった。いっしょに登ったことはなかったが、ヘイリーの実力はマークしていた。ガリボッチェはこのとき、念願のセロ・トーレ縦走（シュタンハルトからヘロンとエガーを越えてトーレまで）を狙い、11月から何度も挑んで失敗していた。全行程の75%は、パタゴニアの経験豊富なガリボッチェが



2008年のセロ・トーレ縦走で、フォローするヘイリー。
ローランド・ガリボッチェ提供

リードしたとはいえ、ヘイリーも期待に応えて二人はみごと初縦走に成功した。

2009年1月、ヘイリーはフィッツロイのスーパー・クーロワールをソロし、ディーン・ポッターにつづく単独第2登を成し遂げた。また、再びガリボッチェと組んで、アグハ・ギヨームからメルモスを越えてフィッツロイに達する縦走（ケアベア・トラバース）の第2登も行なっている。

昨年は、6月にフォーレイカー 5304m南東壁にドラキュラ（M6R AI4+ A0、3170m）をビヨン＝エルヴィン・アルトゥンと開拓。8月にはマイク・シェーファーとデヴィルズ・サム2767mの3つのピークを初めて縦走した。さらに年末から年始にかけてパタゴニアに赴き、シェーファーおよびジェンス・ホルステンと3人でアグハ・メルモス2732m東壁にハルディネス・ハポネセス（5.10 AI1 AI4 M5）を拓いた。スペイン語で日本庭園を意味するこのルート名は、苔が繁茂していたため名付けられたのかと推測される。

この間カラコルムでは、2007年ウルタル・サーウル7388m南東ピラーにジェッド・ブラウンと挑んだ。ラトック I 峰7145m北稜にも2008年（ジョシュ・ワートン、テュルジョンらと）、2009年（再びワートンと）に挑んでいるが、いずれも失敗に終わった。ことしはアルトゥンをパートナーに、バインター・ブラック II 峰（6960m）の北壁に向かう。同じチョクトイ氷河側の壁でも、ラトック I 峰よりも可能性があるかと踏んだようだ。

アルパイン・クライミングのエキスパートたちと早くからロープを組んで、めきめき頭角を表わしてきたヘイリーもことし27歳を迎える。一昨年あたりから自前の計画やソロが多くなってきた。よきパートナーの立場から脱して、自分の道を歩みはじめた今後に期待すること大だ。

第1回全国高校生クライミング選手権大会 91校 194名が参加し開催

第1回全国高校生クライミング選手権大会が12月25、26日の2日間にわたって埼玉県の加須市民体育館で行われた。この大会の開催は長年望まれていたがなかなか実現とならなかった。だが今年日本山岳協会創立50周年記念事業の一環として開催できて本当によかったと思う。

参加選手は男子123名、女子71名の194名、91校33県。有力選手のほとんどが参加し、初代高校生チャンピオンを競った記念すべき大会となった。開会式では高山実行委員長の開会宣言の後、田中会長からは「ずっとずっと待ち望んでいた大会、そして第2、3回とこの大会を育ててほしい。」また加須市からは「加須をクライミングの町として発展させるためクライミングの楽しさをみなさんの若い力で全国にアピールしてほしい。」とあいさつがあった。

10時オブザベーションの後、競技開始。男女同時に4つの壁を使ってのオンサイト形式。

6分間の時間内で最高到達点を競う。予選では選手の力の差が大きいため過去の実績等から競技順を決めたが、完登選手は1/3ぐらいであった。全力を尽くして登る姿がとても印象的であった。

25日の予選の結果、男子は14名、女子13名がトップに達した。これらを含めて上位男子26名、女子27名が準決勝に残った。

26日9時より準決勝。セットされたルートは男子13a、女子12cのかなり難易度の高いものである。女子では小田桃花（山口、防府校）のみ、男子は細田 匠（埼玉、久喜工業）、樋口 純裕（佐賀、佐賀北）の2名が完登した。

決勝は8名。決勝のルートもダイナミックで印象的にムーブを引き出すようにセットされていた。さすが決勝に

進出するだけあってワールドカップやジュニアオリンピックに出場した選手がほとんどで、全員がダイナミックなムーブで観客を興奮させた。女子決勝は小田が安定した登りでトップに達し優勝。男子はトップに達した者はいなかったが、最高到達で細田が優勝した。あっという間の1時間半であった。

閉会式では男女個人それぞれ8位までに賞状、優勝者には田中会長がドイツで買った人形が、団体は各校6位まで賞状、そして初代優勝校の男子埼玉県立久喜工業、女子山口県立新南陽高校へは日山協会長杯が手渡された。

閉会式後の片づけで地元スタッフに混じって最後まで残り、モップ掛けまでしていたのが団体女子優勝校の新南陽高校の部員生徒だったことが印象に残った

このように第1回高校生クライミング選手権大会は盛況のうちに終了した。この大会を開催するにあって沢山の方々からご支援ご協力を頂いたことに深く感謝いたします。

最後に、田中会長が「第2、3回とこの大会を育ててほしい。」と閉会式の挨拶をしたように、今後高校生パワーで飛躍させていきたい。

(記 谷口 浩平)



田中会長を挟んで。女子優勝の小田桃花選手と男子優勝の細田匠選手



女子優勝の小田桃花選手
(山口・防府高) は完登



田中会長から表彰を受ける男子入賞選手たち



男子優勝の細田匠選手 (埼玉・久喜工高)

第1回全国高校生クライミング選手権大会成績

埼玉県・加須市民体育館 2010/12/25・26

学校団体女子							
県番号	県名・学校名	ID番号	氏名	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位
35	山口県立新南陽高等学校	60	大田 理姿	6	6.0	13.0	1
		61	山縣 茜	7	7.0		
12	千葉県立幕張総合高等学校	18	飯田あづみ	4	4.0	14.0	2
		20	福田 恭巳	9	10.0		
35	山口県立防府高等学校	58	小田 桃花	1	1.0	22.5	3
		59	湯野 愛佳	19	21.5		
学校団体男子							
11	埼玉県立久喜工業高等学校	131	細田 匠	1	1.0	22.5	1
		132	青木 大輔	21	21.5		
12	千葉県立幕張総合高等学校	138	羽鎌田直人	3	3.0	29.0	2
		139	小宮山太樹	26	26.0		
12	千葉商科大学附属高等学校	148	島谷溪 亮	14	15.0	47.0	3
		149	佐久間和也	32	32.0		

女子リード総合成績										
順位	氏名	ID番号	学校名	予選 (記録/ルート別順位/順位)			準決勝 (記録/順位)		決勝 (記録/順位)	
				5.11 c (A・D壁6分)			5.12c (D壁6分)		5.13a (B壁8分)	
1	小田 桃花	58	山口県立防府高等学校	top	1組 1	1	top	1	top	1
2	安田あとり	34	山梨英和高等学校	top	2組 1	1	31+	3	35 -	2
3	新城 綾那	44	京都府立桂高等学校	top	2組 1	1	26 -	8	32 -	3
4	飯田あづみ	18	千葉県立幕張総合高等学校	top	2組 1	1	33 -	2	26 +	4
5	水口 僚	35	富田高等学校	top	2組 1	1	31	4	22 -	5
6	大田 理姿	60	山口県立新南陽高等学校	top	2組 1	1	30	7	21	6
7	山縣 茜	61	山口県立新南陽高等学校	top	1組 1	1	31 -	5	20 +	7
8	沼田ほあし	9	茨城県立水戸第一高等学校	top	1組 1	1	30 +	6	20	8

男子リード総合成績										
順位	氏名	ID番号	学校名	5.12 c (B・C壁6分)			5.13a (A壁6分)		5.13c (C壁8分)	
				top	組	順位	top	順位	記録	順位
1	細田 匠	131	埼玉県立久喜工業高等学校	top	1組 1	1	top	1	31 -	1
2	樋口 純裕	216	佐賀県立佐賀北高等学校	top	1組 1	1	top	1	29 -	2
3	羽鎌田直人	138	千葉県立幕張総合高等学校	top	1組 1	1	31+	5	24	3
4	村井 隆一	143	千葉県立船橋東高等学校	top	2組 1	1	30 -	8	24	4
5	津守 暁斗	209	山口県立西京高等学校	top	1組 1	1	34 -	3	24 -	5
6	渡部 桂太	174	三重県立いなべ総合学園高等学校	top	2組 1	1	32	4	24 -	6
7	藤井 快	166	浜松日体高等学校	top	2組 1	1	31	6	23 -	7
8	沼尻 拓磨	118	茨城県立上郷高等学校	top	1組 1	1	31 -	7	19 -	8

ザ・ヒマラヤ・デーを担当して

剣持 典之



平井一正氏（1950年代 京大土山岳会／カラコルム）

9月28日にダウラギリ I 峰で遭難された田辺・山本両氏とは2006年のローツェ南壁で一緒だったので非常に残念でなりません。まずはこの場をお借りしてお二人のご冥福をお祈りします。

さて、7月の合同委員会の席でヒマラヤ・デーの担当をやってみないかと勧められ、軽い気持ちで引き受けましたが、意外に大変な作業だと後になってわかりました。

講演を依頼した皆さまの経歴や講演方法、当日上京する交通手段の確認など、簡単そうですが仕事の合間を縫っての作業は思うように進まず、時間的にもぎりぎりでした。

当日の講演時間は1人あたり20分程度しかなく、短い時間にもかかわらず講師の皆さまに上手くまとめていただき、時には笑いの出るお話もあり大変素



大宮 求氏（1980 山学同志会／カンチェンジュンガ北壁）

晴らしいものでした。

個人的には平井さんと中世古さんが講演してくださったチョゴリザとマナスルの古い映像やお話は興味深く、平井さんの高所による浮腫の原因が栄養失調だと思われていたという話に、今では考えられないほど少ない情報の中でヒマラヤ登山を実践していたのだと驚きました。

また、中世古さんのお話では、国内の合宿で与えられる装備は粗末なもの、荷物はパッキングしにくい残り物。そのような立場の中で登山を続け、ヒマラヤを目指していったというのも、やはり驚きでした。

6人のゲストスピーカーが語るヒマラヤへの熱き思い、そのどれもが私にとって新鮮な感動であり、このイベントに関わったことで、ヒマラヤがさらに身近なものとして感じられるようになりました。

当日は大勢の登山愛好者の方々にお越しいただいたことを有難く思うと同時に、それぞれの講師の方々による貴重なご講演を堪能していただけたのではないかと感じている次第です。

今回、創立50周年の大きな節目の事業にかかわる事ができ、大きなトラブルもなくヒマラヤ・デーを無事終了させる事が出来たのも、関係者の皆さまのおかげと心から感謝しています。

講演者の皆さま、ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



山口貴弘氏（2006 J A C 東海支部／ローツェ冬季南壁）

日時 平成22年12月2日(木)
17:30～21:00
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、
粟飯原副会長、神崎副会長、本
木副会長、佐藤、高山、堀井、
尾形、北山、相良、寺内、永井、
長谷川各常務理事
委任 西内、仙石、青木、谷口
常務理事(18名中14名出席)

1. 専門委員会動静

11月常務理事会以降
(11月4日～12月1日)

【報告】

(1)競技委員会

- 11月7日(日) 出席者18名
- ア 10月常務理事会報告
- ・トレイルラン小委員会設置の承認について
- イ 第1回ブラインド・クライミング世界選手権の進捗状況について
- ウ 第1回全国高校生クライミング選手権の進捗状況について
- ・ポスター、チラシ、ノボリ等の制作ほか
- エ 2011ワールドカップ(印西市)の進捗状況について
- オ ボルダリング・ジャパンカップ(2/26～27)の進捗状況について
- カ アイスクライミング・ワールドカップについて
- ・1/7～9 韓国・慶尚北道

- キ 山岳スキー競技世界選手権大会について
- ・2/11～19 イタリア
- ク 国際マスター大会について
- ケ 後催県の準備状況について
- コ 平成25年東京国体からの監督に対する日体協指導員資格の保有義務づけに対するの資格取得方法について
- サ 今後のトレイルラン小委員会について
- シ ブロック研修会講師の選出について
- ス 山口国体の審判長、副審判長の選出について
- セ 千葉国体の反省及び競技委員会ブロック研修会に向けての内容確認
- (2)国際委員会
- 11月9日(火) 出席者9名
- ア 海外登山隊クロニクルトークショー「The Himalaya Day」(第24回海外登山女性懇談会)の進捗状況について
- イ 海外登山技術研究会の開催について 1月30日(日)
- ウ JACとの合同委員会の開催について(11/30)
- エ 新任委員の紹介
 労山から新たに広木国昭氏が
 常任委員に就任
- (3)自然保護委員会
- 11月16日(火) 出席者16名
- ア 平成23年度自然保護委員総

【50周年記念募金協力者ご芳名】

(1月17日現在)

30口：埼玉県山岳連盟(23団体・8個人)、10口：石川県山岳協会、6口：石塚彰、2口：甲斐一郎、坂上利明、青木敏男、國本旗男、瀧島清、横山哲、石倉昭一、木村泉太郎、1口：羽鎌田直人、大宮求、廣瀬弘
総額：987口・493万5千円

- 会(鳥取)の予報発出について
- イ 自然保護委員会専用ホームページ(日山協公式サイト内)の開設について
- ウ JOC環境担当者会議報告
- エ 自然保護指導員の登録(更新・新規)の承認
 茨城1名、広島5名、以上承認
- オ 50周年事業「国際山岳自然保護大会in東京2011」について
- カ 自然保護指導員研修会について 11/26(金)
- キ 国立オリンピック記念青少年センター
 トレラン、文化財等検討ワー
 キンググループについて
- ク 野生鳥獣目撃レポートについて
 2010年4月以降、145件のレポート
 受信(09年4月以降の累計
 285件)
- ケ 山岳トイレの取組みについて
 「山はみんなの宝、全国大会」
 (11/30、日本青年会館)
- コ 第49回全日本登山体育大会
 (静岡・富士山周辺)の報告
- サ 連絡事項・その他
 全国登山者自然保護集会
 (11/27～28、プリヂストン
 奥多摩園)
- トレラン・シンポジウム
 (12/26、立正大学)

寄贈図書

●寄贈本●

北日本海外登山隊非情の頂
K2への挑戦
山と渓谷社
地形図の楽しい読み方
中華民国山岳協会
中華民国山岳協会85周年簡誌
日本ヒマラヤ協会神々の座
6000m峰挑戦の記録

●雑誌●

山と渓谷社 山と渓谷 1月号
ROCK & SNOW 50号
東京新聞出版部 岳人 1月号
中国登山協会 山野 12月号

●会報●

日本山岳文化学会
財団法人自然公園財団
財団法人健康・体力づくり事業団
兵庫県山岳連盟
全日本ボウリング協会
長野県山岳協会

大韓山岳連盟
財団法人日本ゲートボール連合
山梨県山岳連盟
財団法人大阪スポーツ・みどり振興協会
財団法人国立公園協会
財団法人日本武術太極拳連盟
新潟県山岳協会
神奈川県山岳連盟
財団法人京都府体育協会
財団法人日本体育協会
高校生新聞社
岩手県山岳協会
日本勤労者山岳連盟
やまびこ山想会

信州大学山岳科学総合研究所
Corean Alpine Club
mont.bell
三峰山岳会
NPO 富士山観測所を活用する会
財団法人日本山岳会
近畿山岳愛好会
大阪府立体育会館
日本ヒマラヤ協会
兵庫県山岳連盟
横浜山岳会
日本山岳写真協会

- (4)広報委員会
 11月18日(木) 出席者5名
 ア 『登山月報』11月号(500号)の編集について
 ・千葉国体報告
 ・U A A A総会報告
 ・50周年事業・海外登山隊クロニクル・トークショー報告
 「The Expedition Day」
 ・中高年安全登山指導者講習会報告(西部地区・広島)
 ・キルギスからの報告
 ・マウンテンワールド
 イ 『登山月報』12月号(501号)の編集について
 ・第49回全日本登山体育大会(静岡大会)報告
 ・中高年安全登山指導者講習会(東部地区・山梨)
 ・50周年事業・第1回ブラインド・クライミング大会
 ・50周年事業・海外登山隊クロニクル・トークショー報告
 「The Himalayan Day」
 ・東西南北・愛知岳連からの報告
 ・50周年事業・「国際自然環境会議東京2011」のお知らせ
 ・マウンテンワールド
 ウ ホームページの件
 ・公式ホームページの改善効果について
 ・『登山月報』のPDF公開について
- (5)普及委員会
 11月18日(木) 出席者5名
 ア 中高年安全登山指導者講習会の報告、反省点について
 イ 第49回全日本登山体育大会(静岡)の報告
 ウ ジュニア登山教室情報交換会(2/19)の開催について
 エ 平成23年度ジュニア登山教室について
- (6)競技委・第1回全国高校生クライミング選手権大会実行委員会
 11月23日(火) 出席者8名
- (7)遭難対策委員会
 11月24日(水) 出席者7名
 ア 積雪期レスキュー講習会の講習内容と担当について
 イ 積雪期レスキュー講習会調達装備の確認について
 ウ 23年度事業予定の確認(総会は奈良・飛鳥で決定)

- (8)国際委員会
 11月30日(火) 出席者10名
 ア 海外登山隊クロニクルトークショー「The Himalaya Day」(第24回海外登山女性懇談会)の開催準備について(12/5、国立オリンピック記念青少年総合センター)
 イ 海外登山技術研究会の開催について 1月30日(日)国立オリンピック記念青少年センター
 ウ U A A A総会報告
 エ 東京医科大・高山病外来の紹介

2. その他の重要事項

(11月4日～12月1日)

〔報告〕

- (1)「山はみんなの宝!全国大会」実行委員会 11月5日(金)
 於:自然保護財団
 本木副会長、長谷川常務理事
- (2)U A A A総会 11月5日(金)～8日(月)
 於:中国・北京
 田中会長、笹生常任委員(国澤顧問、青木(正)参与)
- (3)アジア大会結団式 11月6日(土)
 於:グランドプリンスホテル新高輪
 尾形常務理事
- (4)第53回オールスポーツマンゴルフ大会 11月8日(日)
 於:久邇カントリークラブ
 坂口、盛、北見選手
- (5)50周年記念事業・三大峠トレッキング隊帰国 11月8日(日)
 於:成田空港
 岩崎隊長ら10名
- (6)雪崩防災週間及び雪崩防災シンポジウム実行委員会 11月9日(火)
 於:国土交通省河川局
 尾形常務理事
- (7)城隍祠顧問への叙勲(旭日双光章)伝達式・拝謁 11月9日(火)
 於:国立劇場、皇居宮殿
 城顧問御夫妻
- (8)スポーツ拠点づくり推進事業継続の陳情 11月11日(木)
 於:参議院議員会館
 尾形常務理事
- (9)U I A A A登山委員会 11月11日(木)～14日(日)
 於:ロシア・モスクワ
 青山常任委員
- (10)50周年記念・「安全登山の講演と映画会」大阪大会
 11月13日(土)
 於:大阪科学技術センター
 山並理事
- (11)平成22年度臨時理事会
 11月14日(日)
 於:岸記念体育会館
 田中会長ら29名出席
- (12)消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会
 11月15日(月)
 於:消防庁防災部防災課
 西内常務理事
- (13)登攀技術研修会
 11月20日(土)～21日(日)
 於:国立登山研修所
 永井常務理事他
- (14)北信越ブロック連絡協議会
 11月20日(土)～21日(日)
 於:福井・芦原 内藤副会長
- (15)三役会 11月22日(月)
 於:岸記念体育会館
 田中会長、内藤、栗飯原、神崎、本木副会長
- (16)岡山県山岳連盟創立60周年記念祝賀会 11月23日(火)
 於:岡山・ピュアリティまきび
 田中会長、栗飯原副会長
- (17)東京都山岳連盟幹部との懇談
 11月25日(木)
 於:岸記念体育会館
 内藤副会長、尾形常務理事
- (18)山岳共済打合せ 11月25日(木)
 於:事務局
 三井住友海上火災・藤岡、瀬田、尾形常務理事、松隈
- (19)50周年記念事業「安全登山の講演と映画会」愛知大会
 11月26日(金)
 於:愛知県スポーツ会館
 神崎副会長
- (20)自然保護指導員研修会
 11月26日(金)
 於:国立オリンピック記念青少年総合センター
 長谷川常務理事他常任委員
 参加者64名
- (21)50周年記念事業「安全登山の講演と映画会」広島大会
 11月27日(土)
 於:広島コンピューター専門学校
 西内常務理事

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

- (22)平成22年度日山協競技委員会
ブロック研修会（東北）
11月27日(土)～28日(日)
於：宮城県 内藤副会長、
- (23)財スポーツ安全協会第103回評
議員会・第105回理事会
11月30日(火)
於：東海大学交友館「望星の間」
田中会長
- (24)「山はみんなの宝！全国集会」
11月30日(火)
於：日本青年館
田中会長、本木副会長、長谷川
常務理事、松隈常任委員

3. 議事

- (1)平成22年度11月常務理事会議
事録の承認について(一部訂正・
加筆で承認)
- (2)50周年記念功労者表彰及び感謝
状贈呈について(一部追加で承認)
- (3)50周年記念式典・祝賀会につ
いて(別紙資料説明による進捗
報告及び催し案を承認)
- (4)既刊『登山月報』のPDF公開につ
いて(PDFで公開する事を承認)
- (5)日体協・JOC功労者等表彰候
補の推薦について
特別功労者表彰の候補者として坂
口三郎顧問を推薦
功労者表彰の候補者推薦は、1月
常務理事会で決定
- (6)2010年度ミズノスポーツメン
トール賞候補者の推薦について
推薦する候補者がいる場合、1
月常務理事会の前までに事務局
へ連絡
- (7)報告事項
ア 会計月次報告(別紙により報告)
イ 平成23年度事業計画と予算
について(別紙により説明)
ウ 東北ブロック研修会及び北信
越5県代表者会報告(内藤副会
長から口頭での報告)
エ 50周年記念事業について(別
紙にて報告)
オ 2010年(第60回)日本スポー
ツ賞候補者推薦の報告
横山勝丘・岡田康ペアによる
ローガン峰南東壁世界初登攀を
推薦した旨、報告
カ 日本山岳グランプリ選考委員
会について

- 選考委員会で選考した表彰者を
1月常務理事会で追認すること
で了承
- キ 平成23年度海外登山奨励登
山隊について
応募隊が1隊のため、書面審
査で表決することで承認
- ク U A A A 総会報告(別紙にて
報告)

- ケ 第49回海外登山技術研究会
について(別紙にて説明)
- コ 事務局の年末年始業務について

4. 役員等の派遣について

- (1)2011ワールドカップ印西大会
の印西市長表敬 12月3日(金)
於：印西市役所
田中会長、高山、北山常務理事

第11回全日本山岳スキー競技大会兼 第31回秋田県山岳スキー競技大会実施要項

- 1 主催 秋田県山岳連盟
2 後援 (株)日本山岳協会、秋田県教育委
員会、(財)秋田県体育協会、(財)秋
田県総合公社、仙北市、(株)田沢
湖観光協会、秋田魁新報社、(株)
田沢湖スキー場
3 主管 南八幡平山岳会
4 協賛 株式会社山と溪谷社、(株)ICI石井
スポーツ
5 期日 2011年2月19日(土)～20日(日)
6 場所 秋田県駒ヶ岳
(旧)田沢湖高原アスルススキー場
7 日程 【2月19日(土)】
～16:00 各自インスペクション
16:00～17:00 受付
(田沢湖スポーツセンター)
17:00～17:45 開会式
(各種別ごとにスタート
順、スタートタイム、ゼッ
ケン番号の抽選)
18:30～ 夕食・交流会
(宿泊場所：田沢湖スポーツセンター)
【2月20日(日)】
7:00～ 朝食
～8:40 各自スタート地点に集合
(旧田沢湖高原アスルス
スキー場レストハウス前)
9:00～ 登行競技スタート
(旧レストハウス前)
～11:00 登行競技終了
(八合目避難小屋標高1,305m)
11:31～ 滑降競技スタート
(八合目避難小屋)
～12:30 滑降競技終了
(旧レストハウス前)
14:30～ 表彰式
(田沢湖スポーツセンター)

- 8 参加資格
秋田県山岳連盟登録者(含高体連)及び一
般スキー愛好家、県外の参加者も歓迎します。

- 9 申し込み
氏名、生年月日、性別、所属山岳会、連絡先、
宿泊の有無を申込用紙に記入の上、2月8
日(日)までに秋田県山岳連盟事務局へ申し
込むこと。(FAX可)

- 10 参加費
一般9,000円 高校生7,000円
県岳連登録者以外10,000円
20日(日)のみ参加者は、高校生1,000円、
大人2,000円

- 11 表彰
(1)各種別第3位までの者に賞状を授与する。
(2)シルバーの部を除き総合第1位(日山協
杯)、第2位(山溪杯)及び第3位(スポー
ツセンター賞)の者に賞状を授与する。
(3)シルバーの部を除き登行競技第1位及び
全種別を通じ滑降競技第1位の者に賞状
を授与する。

12 競技方法

- (1)競技は次の7種別とする。
①少年の部-10代②青年の部-20代③
成年の部-30代④壮年の部-40代
⑤熟年の部-50代⑥シルバーの部-60
歳以上⑦女子の部-10代以上
(2)参加者は登行・滑降競技双方に参加すること。
(3)ゼッケン番号は、登行・滑降競技共通とする。
(4)スタート順は、①少年②女子③青年④
成年⑤壮年⑥熟年⑦シルバーとする。
ただし、滑降競技は、①女子②少年とし、
③以降は登行競技と同様とする。なお、
参加者数に応じ変更する場合がある。
(5)シルバーの登行競技スタート地点は、
第3リフト降り場付近とする。
(6)登行競技中の追い越しの際は、先行者
は後続者に道を譲ること。
(7)コースは、登行・滑降共通とする。た
だし、各自工夫して最短距離をとって
も差し支えないものとする。
(8)登行は種別毎に一斉スタートし、滑降は
ゼッケン順に1分間隔でスタートする。
(9)コースの途中、特に必要な地点には赤
テープ等を標識としてつける。
(10)成績は登行タイムと滑降タイムを合計
して決定する。ただし、滑降タイムは
6を乗じて計算する。
(11)服装、靴、スキー、ストック、シール
は制限しない。
(12)厳冬の冬山で行う競技であることに
備え、サブザック・行動食・防寒衣・
テルモス等を携行すること。
(13)事故については応急措置のみ行う。
(14)登行・滑降競技開始前に前走者が出発する。

13 荒天対策

- 荒天の場合は、次のような対策等を講じ、
全選手・役員にその都度指示する。なお、
変更した場合は、滑降競技のスタート時
刻等競技予定時刻の変更等をおわせて
行う。
(1)八合目スタート地点の移動等(登行競
技のゴールが八合目の場合)
競技当日、視界が悪い場合、八合目S・
G班の判断で、標高を下げてスタート
させる。なお、変更する場合、スター
ト地点までの下降は隊行動とする。
(2)登行ゴール地点の変更等
天候が極端に悪い場合は、協議の上、
登行ゴール地点の変更等を行う。

14 問い合わせは下記まで

- 秋田県山岳連盟事務局
〒010-0065 秋田市茨島四丁目8-21
斉藤元一 ☎(FAX兼)018-824-0465
15 宿泊所及び開会式・表彰式会場
秋田県田沢湖スポーツセンター
〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内
字下高野73-5
TEL0187-46-2001 FAX0187-46-2003

「22年度ジュニア・普及情報交換会」開催のお知らせ

日本山岳協会としましては、若年層の登山者育成の重要性を認識し、都道府県山岳連盟(協会)の皆様へ「少年少女登山教室」の実施をお願いし、予算面で不十分ながら、多数の応募をいただいておりますことを改めてお礼申し上げます。

特に、今年度は日本山岳協会創立50周年記念事業として、「ジュニア登山教室 in 立山」を企画し、当初の募集人員には達しませんでした。各山岳連盟(協会)のご協力を得て、成功裏に実施することができました。参加者からも継続の希望が出ております。

今後「少年少女登山教室」を拡大充実していくにあたり、活動の内容や参加者募集方法など様々な課題があるかと考えております。

ついでに、下記の要領で「22年度ジュニア・普及情報交換会」開催いたしますので、都道府県山岳連盟(協会)関係者及びご興味のある方のご出席をお願い申し上げます。

なお、開催日を評議員会前日に設定しました。遠方から出席される方々については、宿泊も可能になっております。評議員会に出席される評議員の方々についても、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

- 日時 2011年2月19日(土)18時より20時まで
- 会場 代々木オリンピック記念青少年総合センター セー309号室
東京都渋谷区神園町3-1 電話 03-3469-2525 (交通) 小田急線「参宮橋」駅下車徒歩10分
- 内容 「少年少女登山教室」の実践および実施を検討している方々報告及び交流会。
山と溪谷社「日本山岳遺産基金」について
- 参加対象
 - 各都道府県山岳連盟(協会)の担当者
 - その他、少年少女登山教室に関心のある方

(2)「山の日制定」協議会

12月9日(木) 於: JACルーム
本木副会長、尾形常務理事

(3) I F S C 年次委員会

12月11日(土)~12日(日)
於: ウクライナ・キエフ
小日向常任委員

(4) 2010毎日スポーツ人賞表彰式

12月14日(火)
於: 東京プリンスホテル
尾形常務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

(1) 第31回日本登山医学会の後援(承認)

6. 報告

(1) 自然保護指導員の承認 なし

(2) 指導員の認定承認

- ① 上級指導員(アルパイン)
広島 6名
(上原民樹、大久保泰志、榎恵、森本覚、大塚守雄、池本喜浩)

② 指導員(アルパイン)

広島 8名
(阿部勝俊、上岡晴美、陳瑩娟、森智昭、森茂樹、井川一成、中西論貴、岩見宏)

編集後記

寒い年明けとなりました。1月12日には、皇太子殿下のご来臨を賜り式典・祝賀会が、その前後には国際環境フォーラムとザ・ドキュメントデーが、50周年行事は皆様のご協力により全て滞りなく終了いたしました。次号以降に報告を掲載予定です。今年も登山月報をよろしく願います。(広報 本木 総子記)

登山月報 第502号

定価 100円(送料別)
 予約年間1、200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成23年1月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS® ASG-2** 販売価格 12,600円(税込)

GPSでアウトドアをもっと楽しく!

最大5箇所の目的地(経由地)が登録可能。
 事前に休憩場所や寄り道先のポイント設定に活用!

- 位置情報と移動情報を表示・記録 (リアルな数値情報とログ機能搭載)

株式会社 コピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33
 お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで TEL.03-3769-1190
<https://atlas.yupiteru.co.jp>

※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブへ入会(無料)し、直接購入もできます。



ネパールに行くなら、風の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

株式会社 風の旅行社
 観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員
 総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.Oビル 6F
TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174
 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F
TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail info@kaze-travel.co.jp

